



# 森のなかま

2024年 8月号

NO. 194 (継続339号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史  
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

## 【森林技術部会主催】竹林整備研修会

日時：令和6年5月19日(日) 曇りのち時々小雨 9:30~15:00

場所：相模原市中央区田名塩田 2号緑地

講師：野口⑰、三浦⑰、統括真貝①

参加者：菊地①、滝澤⑤、湯浅①①、斉藤⑬、岩田⑭、水野⑭、大見⑮、大谷⑰

森林技術部会の竹林整備研修会が相模原市内にて行われました。ここでは、2023年2月に県民参加の森林づくりで竹伐が行われたところです。

真貝統括講師から今日の研修会の目的、講師、班体制、作業内容、注意事項、安全目標のおはなしがあり、準備体操で身体をほぐして作業場所へ移動しました。

作業場所は、昨年、竹伐されたところではありましたが枯竹、倒竹などで鬱蒼とした竹林となっていました。講師を含め11名のメンバーの口からは、「うーん、こんなになってるの、いや〜、これは結構大変だなあ、うーん・・・」 などなど。およそ120m×10mくらいのエリアを2班に分け、さらに8人に振り分けられました。

さあ、作業開始です。作業開始前に、人が通りやすい通路幅を確保しましょう、竹の長さは揃えて通路と並行に見栄え良く置きましょう、竹は地際で切ることとしましょう、など作業の再確認を、また、竹伐した竹の整理のしかたなど過去の活動での置き方などを参考にそれぞれの持ち場で桿と枝の置き場を決め作業にかかりました。

竹林整備においては、インストラクターの会発行の「竹林整備作業マニュアル」を再読し、わかったつもりではあっても実際に整備作業をやってみると、ああそうだった、こうする方がはかどる、ここは注意しなければなど、また、共同作業でありがちな近接作業にも気をつけながら、それぞれが良い汗をかいていたようです。それぞれの班の講師は、作業手順の様子や、安全作業になっているかなど指導的な面から、また統括講師は、それ以外にも休憩を定期的にとるなど熱中症対策への気配りも忘れずに、みんなが怪我することなく、午前中が過ぎました。



作業終了時の状況

お昼のお弁当は藪蚊の多い作業場を避け、塩田自治会館前まで戻り取ることにしました。すると、空からは天気予報どおり弱い雨粒が・・・。昼休みには、孟宗竹で製作したランプシェードや、真竹で作ったペットボトルホルダーなどのお披露目?があり、次回のイベントでの可能性などに花が咲きました。

早めに昼食を済ませ午後の作業を午前に引き続き再開です。作業前には、統括講師から「曲がった竹の切り方のデモンストレーション」がありました。手元ロープを根元に巻き結びしておく

ことで、鋸を入れたとき竹の跳ね上がりを防止し怪我することなく安全に作業ができると。「なるほど、うんうん」納得した面々でした。この技いただきですね。その後は午前中の作業をそれぞれが積み方や置き方、竹伐の攻め方をなど確認しながら作業が続けられました。

天気の心配もありましたので、1時間ほどの作業で終わりにし後片付けと成果の確認です。作業前、鬱蒼とした竹林に挙げた声が、



作業開始時の状況



作業が終わって集合写真

日当たりが良く明るく変貌した竹林になったこと、また、メンバーそれぞれが今日の研修会で竹林整備作業手順を見直すことができ技術の向上が果たせたことなどが入り混じり、じわっと達成感に満たされたうれしい声に変わりました。「広くなったね、明るくなったね、歩きやすくなってこれでホタルも見やすくなったね、・・・」

また、この時期はマダケが出始める時期なのですが、まだ、早かったようです。残念な思いもありましたが、竹林整備作業の基本を理解し直し、技術の向上を図ることでインストラクターとして各種の活動で生かすことができる自信がついた良い研修会の一日となりました。おつかれさまでした。

(記 大谷 雅彦⑰、写真 真貝 勝⑱、三浦 由香子⑲)

## 【自然観察部会主催 第 107 回森林探訪】 「真鶴半島のお林と磯を訪ねる」

日時：令和 6 年 5 月 19 日（日） 曇り～小雨 9:00～14:00

参加者：31 名、看護師：青木様

インストラクター：L 河西⑳、小池㉑、西岡㉒、牧石㉓、加納㉔、久次米㉕、久慈㉖、鈴木㉗

コース概略：真鶴駅（集合）バス→中川一政美術館（スタート）→お林展望公園→灯明山→番場浦遊歩道→潮騒遊歩道→三ツ石手前の磯（昼食）→周辺の磯で海洋生物観察→ケーブル真鶴（ゴール）バス→真鶴駅

行動時間 約 5 時間 高低差 約 90m

真鶴半島は今から 23 万～13 万年前に海底から噴出したマグマが冷えて固まった溶岩ドームが連なった地形と考えられており、「箱根ジオパーク」に認定されています。半島の先端には、江戸時代に小田原藩によって植えられたクロマツと、明治の頃に植えられたクスノキの巨木、本来の自然植生のスタジヤや中低木で構成される「お林」と呼ばれる豊かな植生が広がっています。これは海に緑陰や養分を提供する「森は海の恋人」の魚つき保安林になっています。今回は 31 人の参加者が 5 班に分かれ、森と海岸を歩きました。

真鶴駅からバスで中川一政美術館に着き、海に向かって少し下りた、お林展望公園で全員集合。リーダーからあいさつと説明のあと、各班ごとに準備体操してから、海を展望しましたが、あいにくの曇りで伊豆大島がかすかに見える程度でしたので、晴れば新島や利島、神津島が見えることを説明しました。公園内に建てられた小松石の石碑の前では銘石の最高級品としてブランド化され、源頼朝の墓石や鎌倉大仏の台座にもなっていることを説明し、いよいよ散策開始。「この花は何ですか?」「あの木の上の草は寄生しているんですか?」。歩きながら、いろいろな質問に答え、それを



ハマボス

後ろの人まで伝えるために立ち止まり、各班抜きつ抜かれつ、楽しく観察を続けました。

お林の中では恐らく 3 番目に太いと目されているクスノキがルート上にあつたので、2 回目の下見の際に地上 130 cm で幹周を測定したところ 6.77 m ありました。私の班では、この迫力のあるクスノキで時間を割き、樹肌に触れてもらいながら、茨城県が北限とされるクスノキがここ数十年の温暖化の影響により関東南部で樹勢を増していることや、日本一の巨樹が鹿児島県始良市蒲生町の「蒲生の大クス」であることなどを説明しました。クロマツやスタジヤも混生する巨

木林は海にせり出した半島の森としては珍しく、少し歩けば海岸に出て、ハマボスやハマゴウ、ツルナなど海浜植物も楽しめる真鶴は、山と海の自然の素晴らしさを同時に味わえる貴重な自然です。耳を澄ますとキビタキのさえずりが森の上の方から聞こえることもみんな確認しました。

高低差のあるところでの足に負担をかけない歩き方や、細い山道ですれ違うときは山側に立ち体の正面を谷側に向ける



ことなどを教えているうちに、どんどん時間がすぎ、「先頭から 1 時間遅れている」とのアドバイスに焦り、後半は説明や質問への受け答えが十分にできず、反省しきり。お蔭で私の班では神奈川県天然記念物に指定されているウメボシイソギンチャクは潮が満ちてきて観察できず、事前に用意してきた写真で説明しました。実物を観察できた班もあったそうです・・・

今回は海と森を同時に味わう楽しい観察会でした。天候は曇りで涼しく爽やか、雨が本格的に降り出したのは終了後で、天も森林探訪を応援してくれました。今後もお客様の声やインストラクター仲間のアドバイスをバネにみなさんに満足していただけるガイドを心がけていきます。

(記 鈴木 康浩⑩、写真 河西 静夫⑨)

## 令和 6 年度第 2 回神奈川県森林インストラクターブラッシュアップ研修 間伐研修 (間伐作業)

日時：令和 6 年 6 月 8 日 (土) 9:00～16:00 晴れ

場所：真鶴町県行造林 (真鶴町岩)

講師：有限会社丹沢 代表取締役 前田裕司 氏 ほか 2 名

参加者：インストラクター 23 名、事務局 (豊丸、南橋)

神奈川県森林インストラクターであり、有限会社丹沢代表取締役で林業に従事されております前田裕司先生と同社現場にて活躍されております安斎祥永先生、佐藤洋太先生に「間伐研修～間伐実施までのロープやスリングのセッティング～」を県民参加でも活動地になっている真鶴町岩にて研修いただきました。



研修最初は KY (危険予知) 活動から。今日の活動地の場合はどういふことに気がついた方が良かったか全員で意見を出し合い確認しました。参加者からはたくさんの意見があり、講師からは「KY 活動で沢山の意見があったこと感心した。作業の安全は環境を整えることが基本であり、特に足場を整えないと命取りになる」とお話いただきました。

研修は全体での説明

後、1 小班 3～4 名で実施しました。

実習は、鋸を入れる直前までのセッティングをしては講師に確認。(講師より) 合格が出たらロープ・スリングを外し、次の対象木にセッティング…までを繰り返す方法『間伐セッティング 100 本ノック』です。

午後は小班毎、人数分の回数セッティングの合格をもらった班から伐倒開始。



自分たちのセッティングを実証し、伐倒木の重心の見方、地際の感覚 (山側から見て 20cm 以内) の確認、スリングはロープを引っ張る方向で通す穴を変えること、班によっては、ツルの残し方や木の回し方、フェリングレバーの使い方など実践で学びました。

参加者からは「滑車の位置が伐倒方向の目安になること、スリングのセットの仕方、大変勉強になった」「林業専門家による経験に基づいた、的を絞った、かつ知見に富んだ、短時間でも充実した研修であった」等、今後の間伐作業の際に活きる感想を多くいただきました。

(記 南橋 友香(財団)、写真 井出 恒夫①、末原 興一⑨)

## シリーズ 『やま』の色々

### 第3回 生物多様性について考えてみます③

サンフランシスコの様子

公益社団法人 大日本山林会参与 桜井尚武 氏

樹木資源が枯渇したこの地域の住宅材料等の木材を賄うためにアメリカだけでなく、世界各地の有用木が探索されて最も成長がよく大きくなるとされたのがBlue Gum (ユーカリ *Eucalyptus globulus*)だったというのです (図1、2)。

図1のiPhoneサイズから伐根の年輪幅を見ると、直径成長が低下する外周部分はともかく16 cmの長さのあるiPhoneを置いた部分の年輪幅は3 cm~4 cmもあると読めます。仮に3 cmの成長が10年続けば直径は60 cmにもなる、話半分としても30 cmを見込めるのです。

実際Blue Gumの成長速度は自生地オーストラリアを上回るのが常態だといえます。これを根拠に、政府の援助を得て植林地が各地に造成されたそうです。しかし、実際に大きくなったものを製材してみると、狂う、割れる、強度が乏しいということが解り政府はこの樹種の生産を中止しました。しかし、谷底部を除くと高木林の少ないサンフランシスコ界隈では、樹林地の存在が住民の要望であって、緑地造成の価値があるとしてBlue Gumと共に赤花のや葉の広いの等幾種ものユーカリが受け入れられました (図3)。

1880年代に東西を結ぶ鉄道が敷設されて西部への入植者が増加しました。1800年代末期から1900年代にかけてオレンジやレモン、アボカド、デーツ等が持ち込まれて東部へ移出する一大産業になったそうです。これら農産物生産のために必要な防風林のためにユーカリは使われ続けました。

1907年に政府が出した「アメリカの広葉樹資源は15年後に枯渇する」という文書が木材資源の保全・増産のブームを引き起こし一大投機ブームが起こりました。この主役は成長の早いBlue Gumでしたが結局使い物にならないことが再び明らかになり、政府の使用制限も出て数年のうちに終息したそうです。

伐られずに放置された造林地は中央部カリフォルニアに残ったそうですが木材生産地としては機能しなかったようです。それでも、緑化植物として現在まで残りました (図4)。

現在でも大きなユーカリの伐採には住民の根強い抵抗があるそうです。もちろん、ユーカリだけではなく、持ち込まれた様々な樹種のうちの高木になる樹木として成長しているものは住民の好評価を得ているという記事がみられ住民も緑陰が身近に整備されることに好感を寄せて、ユーカリを主とする外来種は受け入れられ、それは今日まで続いているのだそうです。

桜井先生のご執筆内容にご感想やご質問がありましたら  
先生のアドレス

[hayachines@yahoo.co.jp](mailto:hayachines@yahoo.co.jp) にお送りください!

図4. 郊外に見られたユーカリ  
造林地(2023.3.31)  
Half Moon Bay, SF



図1. Blue Gum の並木にあつた伐根  
iPhone の大きさは 16 cm × 7.7 cm  
(2023.4.19) Burlingame, SF



図2. 街路樹の並木と伐根  
(2023.4.19) Burlingame, SF



図3. 赤花と丸葉ユーカリの例  
(2023.4.24) Burlingame, SF



## 活動短 信

今回の掲載は R6 年 5 月 19 日から R6 年 6 月 13 日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

8 月(葉月)(旧暦 7 月文月)の  
二十四節気と雑節、鳥こよみ

二十四節気：立秋 8/8 処暑 8/23

旧暦の七夕は立秋のころ。中国では乞巧節(きっこうせつ)と言います。梅雨が明け、天の川が奇麗に見えて七夕のお祝いにふさわしい気候になります。

鳥こよみ：夏は鮎の季節。鶺鴒は、鶺鴒が鮎を獲る習性を巧みに利用した漁法で、古墳時代から続いているという説もあります。有名な長良川の鶺鴒漁師はカワウより丈夫だという理由でウミウを使うそうです。

活動短 信への投稿概略フォーマットと略語の説明  
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。できれば Word、メール直筆でも OK。Excel は不可。写真もあれば添付ください(紙面の都合上 3 枚以内でお願いします)。

## ◆ 活動団体・活動名 等

日付:令和 x 年 x 月 x 日(曜日)できれば時間と天気も

場所(例:相模原市緑区 長竹継分収林)

参加者 人数

例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、 看護師

例 小田原市森林組合 XX 様

例 川崎市公園緑地協会・XX 様

インストラクター① (○数字:期)  研修枠

以下、本文を 400 字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名、写真撮影者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします m(\_)\_m

## ◆ ソニーグループ株式会社 様

2024 年 水源林保全活動

令和 6 年 5 月 19 日(日) 10:00~14:30 曇り後小雨

やどりき水源林

38 名(大人 32 名、子供 6 名)

神奈川県水源環境保全課 武田副課長、野口技師

L 岡村⑩、宮下⑩、松本⑪、藤井(敏)⑭、

藤井(世)⑭、石垣⑮、田島⑰、小国⑰

毎年行っている森林保全活動が今回はやどりき水源林で開催され、前日の暑さからこの日は朝から曇りとなりましたが、程よい気候で活動を行うことができました。10 時頃までに、自家用車、貸切バスなどで新緑が濃い当地に集合、準備体操では二人組みのストレッチもあり、体も気持ちもほぐれてスタートしました。

午前中は 2 グループに分かれて活動。森林活動グループは山道をずんずん歩き、成長の森でツル切りを行いま

した。短時間の作業でしたが、カツラの木にからんだツルを取り除くと林の中が明るくなったことを実感できました。

自然観察・癒やしグループは、B コースの散策・

森林浴、さらには木伝導・ハンモックなどを体験しました。木伝導は初めての方が多く、川底の「コロコロ」という音が耳に心地良く癒やされたとの感想が多数ありました。ハンモック体験は、午前・午後行い、大人気で殆どの参加者に体験していただきました。木々の木漏れ日や樹冠の揺らぎに心が安らいたとの感想をいただきました。

また、活動の合間に水源林涵養実験を行いました。森が多く水を貯め、徐々にきれいにして流す機能を持っていることが、森のミニチュアで判っていただけだと思います。



午後は少し雨模様となったため、集会棟横で丸太切りです。直径 10cm ほどのヒノキを子供たちが最後まで頑張って切りました。切り取った厚さ 3cm ほどの丸い木片に色を塗ったり、さらに小さな木片をつけて動物の顔を作ったりしました。

盛りだくさんの内容でしたが、怪我も無く、初めての方もやどりき水源林を楽しんでいただけだと思います。(記・写真 小国 一男⑰)

## ◆ 横浜市立岩崎小学校 間伐体験

令和 6 年 6 月 3 日(月) 10:00~13:00 晴れ

長竹継分収林

先生 6 名、5 年生 56 名、計 62 名

古舘様

L 牧石⑭、野牛⑧、松本⑪、西出⑫、松石⑬、小国⑰、鈴木⑰

この日は天候に恵まれ、子供達もほぼ時間通りに集合場所に到着。

あいさつの後、ヘルメットやノコギリ等を装着して間伐体験場所まで、山道を歩くこと約 15 分。道中、ヤマビルとの戦いに苦戦しながら歩いていたので間伐場所についた時には気づかれしている子供もチラホラ。到着後は各組の代表者 4 名がインストラクターから間伐手順などの説明を受けてから体験開始。その間に他の子供達は、なぜ? 間伐をしなければいけないか? などの説明を受けてから間伐



を見学しました。

伐倒は多少周囲の枝に引っかかり、何度かロープを引っ張りながら、やっと倒せました。

倒れた瞬間、見学していた子供達から『おお〜』という声と共に拍手がおこりました。その後、各班に分かれて玉切り、切り戻し、林内整備の作業を実施。

一通り終えてから、体験記念に自ら切った木を持ち帰る為の木を切る作業へ。太い木を選ぶ子、細長い木を選ぶ子、早く終わって木の皮を剥くのに夢中になる子、中には時間内に持ち帰る木を切り終える事が出来ずに大泣きする子も。下山後、ヘルメットやノコギリ等を片付けてから子供達の感想を聞いたところ、概ね『とても楽しかった』とのこと、そして怪我人が出ずに終わったこと等、子供達にとってとても充実した時間を過ごせたことは、各々記憶に残る間伐体験となったことでしょう。



(記 鈴木 強史⑰、写真 牧石 稔⑱)

#### ◆ 平塚市立大原小学校

##### 環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～ 「水の中の生き物ウォッチング “ヤゴ救出作戦”」

日 6月5日(水) 9:00～12:00 晴れ

場 平塚市立大原小学校(プール、体育館)

参 5・6年生(特支含む) 62名、教師3名

イ L 井出①、足立④、谷川⑪、大原⑬、石垣⑮、大森⑯

シーズンオフのプールには、普段目にする事のない水生昆虫、プランクトンが生息している。これら水生生物を探し観察することで、生き物のつながり、環境とのかかわりを学ぶことを目的に授業を行った。

「ヤゴ救出作戦」と銘打って、プール開きの前に30cmほどの深さになるように水を抜き、手網を用いてヤゴを中心とした生き物採取を行った。



アカネ類のヤゴを中心に1,000匹程度捕獲。捕獲したヤゴは、一部は児童が飼育。残りは先生が近接の公園の池に許可を得て放流した。

プールでの活動の後体育館に集まり、トンボ・ヤゴの生態について詳しく解説を行った。また光合成、生き物のつながり、食物連鎖について解説を行った。

この活動で、子どもたちに自然とふれあう楽しさ、生き物に対する興味を持たせることができた。そして、身の回りの自然の中に、多様な生き物がいることを気付くこと

で、自然の大切さを学ぶことができたと思う。

(記・写真 井出 恒夫①)

#### ◆ 第2回 県民参加の森林づくり 竹林整備

日 令和6年6月1日(土) 8:30～14:00 晴れ

場 小田原市小竹

参 89名

財 藤本様、南橋様

看 青木様

ス 小田原市森林組合様

イ L 湯浅⑪、鈴木⑧、徳岡⑪、宮下⑫、渡辺⑫、大原⑬、河西⑮、末原⑮、中澤⑯、永田⑯、祐谷⑯、内田⑰、兵頭⑰、文原⑰、松原⑰、三浦⑰

台風1号が消滅し、月が改まった6月1日、天気予報でやきもきさせられた「県民参加の森林づくり」がついに実施になった。

現場は二宮駅からマイクrobasで20分ほどの里山。住宅地の奥に田畑や山林が広がる。農道から少し上がった竹林は若い竹、枯れた竹、傾いた竹が混在。以前の県民参加で伐採した竹も乱雑に積んである。



各班は数人ずつのグループに分かれ、竹藪に入り込み、竹と格闘する。初心者はインストラクターの助言に従い、最初は慣れない手つきだったが、次第にのこぎりの動きが速くなる。ベテラン勢はさすがに手早く要領が良い。乱雑だった竹藪は少しずつ見通しが開け、明るくなっていく。

場所によってはかん木が混じっていたり、枯れ竹がうるさいところもあったが、インストラクターが丁寧に指導し、参加者は文句を言わずに熱心に竹を切ってくれた。参加した小学生2人もすっかりのこぎりが上手になった。

参加者からは、グループ作業で「効率よく作業を進めることができた」「満足した」「非常にきれいになった」と概ね好意的な声が聞かれた。おみやげにタケノコを持ち帰る人も多くいた。ただいいことばかりではない。2人が軽いやけどをした。

竹林の手入れは里山の自然保全に欠かせない。放置すると一気にジャングル化し、生物多様性が損なわれるなど手ごわいが、省力化など手入れの方法を工夫しながら、息の長い取り組みが必要だと感じている。



(記・写真 湯浅 鉄男⑪)

### ◆ 株式会社アルバック様 森林再生プロジェクト 竹伐作業、丸太切り／木工クラフト

日 令和6年6月8日(土) 9:30～12:00 快晴  
場 21世紀の森(南足柄市)  
参 44名(大人37名、子ども7名)  
県 水源環境保全課 野口様、黒田様  
イ L 田島⑰、牧石⑱、西出⑲、石垣⑳、大谷㉑、森本㉒

今年で活動3年目を迎えるアルバック様の森林再生プロジェクトは、21世紀の森にて曇ひとつない快晴のなかで、「竹伐作業」と「丸太切り／木工クラフト」に分かれての活動でした。



「竹伐作業」は、広葉樹林の再生を目指して竹の皆伐作業です。足場の悪い斜面でしたが、安全第一で声を掛け合い、全員が黙々と伐採／枝払いの作業を実施。作業前後の景色を比較して、達成感を感じていました。最後に竹伐作業に参加したお子様へインストラクターからサプライズ!! 直径2cm程度の伐採した竹を、除菌シートで汚れを取り、紙やすりで面取りして「竹コップ」をプレゼント。すてきな笑顔で喜んでくれました。

「丸太切り／木工クラフト」では、直径20cmの太いカツラの木を、小さなお子様も一人で切っており、親御さんが子供の成長を笑顔で見守っている姿が印象的でした。丸太切りで切った木に、富士山など参加者が好きな絵を描き、ニス塗って素敵なコースターに仕上げていました。

森林再生プロジェクトを通じて、アルバック様の活動目的の一つである「社員交流」と「家族団らん」も、終始、笑顔が絶えない活動により達成できたことと思います。

(記 森本 利弘⑰、写真 牧石 稔⑱=竹伐作業、石垣 桃栄⑲=集合写真、丸太切り／木工クラフト)



### ◆ 横浜市立上瀬谷小学校 間伐体験

日 令和6年6月13日(木) 9:00～12:00 曇り  
場 相模原市緑区 長竹継承分収林  
参 53名(大人6名、5年生児童47名)  
財 古舘様  
イ L 松石⑳、斉藤㉑、野牛㉒、松本㉓、西出㉔、牧石㉕

猛暑の予報が出ていたのですが、幸いにも曇が多く、25度以下に収まって子供たちの体力に影響なく元気に活動出来ました。

子供たちは2クラスで合計46名。1クラス2班に分かれ、計4班で間伐体験をすることになっていました。両クラスから

それぞれ代表者5名が選ばれて、クラスで1本を伐倒する作業をし、他の子供たちは伐倒の見学をしてから班ごとに林内の整備をするという計画で実施されました。伐倒木は25年程度のヒノキです。

代表者5人が配置につき、予めインストによって伐倒準備が整っていた木に鋸を入れていきますと、見学の場に立っていた子供たちにも期待と緊張の雰囲気が出てきました。

伐倒はロープを何回も、力いっぱい引いてようやく倒れましたが、その瞬間は見学の子供たちから歓声と拍手が起こり、一体感が感じられる一瞬でした。

伐倒後は、各班に分かれ、伐倒木の処理と林内の整備として伐倒後の切り戻し、落枝の整理などの作業を行いました。作業の合間にインストから森林講話を聞いている班もありました。

今回は、代表者が伐倒するという新しい形での体験でしたが、全員がそれぞれの役割を理解して参加している様に見えて、充実した有意義な活動になったと思います。

(記・写真 松石 藤夫⑳)



### やどりき水源林ミニガイド

#### 「やどりき森の案内人」

毎週土曜・日曜の午前10時と午後1時から「NPO法人かながわ森林インストラクターの会」会員が水源林をご案内します。やどりき水源林ゲート前までお越しください。

#### 「やどりき水源林ニュース」

7月号は「梅雨だ！夏が来る！水源林へ行ってみよう！」です！



森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <https://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>  
(HP担当：森本 利弘)

#### ◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。原稿は随時受付けています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

河西 静夫  
skasai0618@gmail.com

<電子配信会員向け担当>

小池 宗子  
muneko-sakura@outlook.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】河西 静夫  
skasai0618@gmail.com  
黒川 敏史  
kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小国 一男  
ka-oguni@ab.auone-net.jp  
河西 静夫  
skasai0618@gmail.com

#### ◇ 編集後記 ◇

★ 今年も暑い(熱い?)夏がやってきました。地球温暖化と全人類は騒いでいますが、解決の方法はあるのでしょうか? 無い。エネルギーを使用する限り。そうだ、一つ方法がある浅く地下か海にもぐる事です?

でも、個人では多額のお金がいる。(松本)

★ 先日、会社時代の知人から「お歳暮」を渡された。「今一番旬のものだよ」と鼻を膨らませている。袋の中をのぞくと見覚えのある封筒が見え、思わず笑ってしまった。渋沢栄一、津田梅子、北里柴三郎。発行されたばかりの紙幣の新しい顔が並んでいた。「現ナマ! 旬のものをありがとうございます」「縁起物だから、並んだよ!」記憶に残る贈り物に感動した。現金至上主義で生きてきた我々は、キャッシュレス時代についてゆけるのか? とつい先日も話したばかりだ。結婚式のご祝儀をまさかのカード決済? 「へえ〜」オンラインご祝儀にはついてゆけない。(小林)

★ パリ五輪が始まりました。メダル、メダルと騒ぐマスコミには辟易しつつも、4年(今回は3年)に一度のトップアスリート達の繰り広げる熱い戦いを観るのは楽しみです。参加選手のストーリーが詳しく紹介されることも多くて、それらを知るのも楽しみの一つになっています。熱帯夜もあいまって、寝不足の夏となりそうです。(河西)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取り組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

かながわすくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。



[https://twitter.com/kanagawa\\_sizuku](https://twitter.com/kanagawa_sizuku)

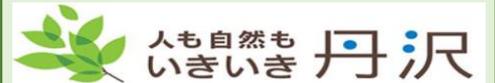


やどりき水源林問合せ：(公財)かながわトラストみどり財団

TEL：045-412-2255 / FAX：045-412-2300  
<https://ktm.or.jp/> Mail: midori@ktm.or.jp

かながわ森林インストラクターの会

<https://www.forest-kanagawa.jp/> Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp



丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会のホームページをご覧ください。

<http://www.tanzawasaisei.jp/>

#### 年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454 かながわ森林インストラクターの会  
宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人：河西 静夫  
広報部：黒川 敏史、松本 保、  
笠原 かずみ、長尾 晴子、  
小林 照夫、小国 一男、  
小池 宗子  
支援：大原 正志、吉田 郁夫

# 第16回森林文化講演会

## 山と森林を歩いて、未来を見つめる

世界各地の山と森林を歩き、考えてきたこと。極限の森林シベリアのタイガ、アジアの熱帯林、ヨーロッパの森。日本の山と森は、どんな森林なのだろうか。角度を変えてみれば、山の形も森の姿も別なものに見える。ありふれた林と隔絶した森林を比べて見えてくる未来を考えてみた。

講演 武川 俊二 氏 (たけかわ しゅんじ)



2024年9月7日(土)

場所 :あーすぶらざ 5F 映像ホール

開場 :13時

開演 :13時30分~15時00分

定員 :120名(申し込み先着順)

会費 :500円

締切 :8月25日(日)

かながわ森林インストラクター第6期  
JR大人の休日クラブのガイド、  
山岳アドバイザーとしてTV等でご活躍中

### プロフィール

東京生まれ。山岳雑誌の編集に携わり、その後ソ連専門の山岳旅行会社を起す。1980年代に当時ソ連領の山脈等未知の山域に踏み入る。2003年(社)日本山岳ガイド協会の設立に参画する。学生時代より岩壁登攀に傾注し、400以上の岩壁ルートに登る。西頸城海谷山塊、明星山などの岩壁で初登攀などの記録を残す。生涯登山日数6500日及ぶ。内2500日以上が積雪期登山。

共著に『シベリア大冒険』『シベリア大自然』『山と私の対話』他にガイドブックなど多数。

1976年~84年東京都山岳連盟山岳遭難救助隊

1981年~96年日本山岳協会海外専門委員会委員。

現在、公益社団法人日本山岳ガイド協会理事長、NPO法人かながわ山岳ガイド協会理事長、国立登山研修所専門調査委員、環境省自然公園指導員を務める。林業技士。



### アクセス

横浜市栄区小菅ケ谷1-2-1

(JR本郷台駅徒歩3分)

神奈川県立地球市民かながわプラザ

TEL:045-896-2121

### 申し込み:

1.お名前(フリガナ) 2.ご住所(市まで) 3.年代

4.所属団体があれば団体名を明記の上

[S-instb12@jcom.zaq.ne.jp](mailto:S-instb12@jcom.zaq.ne.jp) 担当 菊地まで申し込みください。

主催: NPO法人 かながわ森林インストラクターの会

共催: 神奈川県森林協会(申請準備中)

後援:(公財)かながわトラストみどり財団(申請準備中)

